

## 精神科認定看護師実践報告

精神科認定看護師は全国のさまざまな施設で、質の高い看護実践に取り組んでいます。その現場での実践内容を紹介します。  
\*なお、倫理的配慮として個人が特定されないよう、事例には改変を加えています。

## 精神科認定看護師 JOURNAL

### 地域医療連携室に勤務して

私は、精神科認定看護師の資格取得後から、地域医療連携室の相談員として勤務しています。

当院の地域医療連携室は、以前まで精神保健福祉士4名のみの配置でしたが、現在は精神保健福祉士4名と精神科認定看護師1名が配置されています。

地域医療連携室は、入院相談や制度相談、入院中の患者さんに対して退院後生活環境相談員としてかわかることを主業務としており、院内の多職種と協働することに加えて、地域の支援者とかかわる機会も多い部署です。

### 支援者からの情報を入院後の支援に活かす

入院相談では、地域の支援者からいただいた患者情報を医師や病棟スタッフと共有していく必要があります。情報収集のときには、いただいた情報をそのまま医師や病棟スタッフへ報告するのではなく、支援者に聞き取りを行いながらアセスメントし、状況を詳細に確認して報告するように心がけています。

たとえば、支援者より「施設入所中で認知機能低下がひどく、問題行動が多くて困っている」といった入院相談があります。そこで、支援者に、認知機能が低下していると思った場面や、問題行動に至るまでの経過を詳しく確認します。また、問題行動だ

けに注目するのではなく、穏やかな時間はあるのか、その方の趣味や強みなど、よい部分についても確認します。

入院相談の時点では、表面化している問題行動ばかりに目が行きがちです。しかし、問題行動に至るプロセスの詳細やストレングスに着目することで、問題行動に至らないようなかわり方や環境整備、ストレングスを活かした支援を検討することができます。

そこで、入院後の支援を見据えて情報収集を行い、病棟スタッフに入院初期から退院支援の視点をもってもらうことができま

### 自身の成長につながった「他者と協働していくスキル」

多様性が尊重される昨今、個人の価値観や職種間の価値観もさまざまです。そのようなか、地域医療連携室では、前述のように院内外の多くの人、職種とかかわる機会がたくさんあります。

精神科認定看護師教育課程を振り返ると、精神科看護の専門性を多角的に学ぶことができました。そのなかで学んだ「他者と協働するスキル」は、大きく成長できた部分だと実感しており、いまの業務にもよい影響があつたと感じています。

今後も、職種間や立場を超えて、他者と協働しやすい精神科認定看護師をめざすとともに、自身をロールモデルとして他者と協働していくスキルを地域医療連携室から院内外へと広めていきたいです。



金子壮大(かねこ・あきひろ)  
医療法人敬愛会末広橋病院(新潟県)  
(2023年登録)

精神科看護の正しい知識を学びたいと思い、精神科認定看護師の資格取得をめざしました。